一れつ

全教一斉にをいがけデー

去る９月は、にをいがけ強調月間でした。伝道庁でも一斉にをいがけデーとして、月次祭前日の土曜日に戸別訪問を行いました。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.911

OCTOBER 2023

tenrikyo.com

つらつらせんがく
熟々浅学

― 四方正面 ―

今月は立教の元一日である10月26日を迎えます。そして、本部ではその日を記念して秋季大祭がつとめられます。そこには立教の元一日で親神様が教祖のお口を通して「世界一れつをたすけるために天降った」と仰せられた思召が込められています。そのことを忘れずに秋季大祭を迎えていただきたいと存じます。つまり、天理教の立教の理由は、この世界を陽気ぐらしにするためであることを、再確認していただきたいということです。

さて、日本では「人の振り見て我が振り直せ」という諺があります。この諺は、自分の周囲の人々の行動を見て、自分の行動がどうなのかを省みて直すべきところは改めることの大切さを述べていると思うのです。つまり、自分の周囲の人々の言動を見聞きして、その人々の良いところは見習い、悪いところは自分にも同様に悪いところがあると自覚して改めるようにとの意味だろうと思うのです。そして、それは自分の人間性を高めることに繋がると思うのです。

この諺は、天理教の「四方正面」と仰せいただく教えと似ているように思いますが、同じ意味ではないと私は思っています。

天理教事典には、「四方正面」について次のように書いてあります。

四方正面とは、東西南北あるいは前後左右のすべてが正面ということであり、どこから眺めても裏がなく、澄みきっていること。「おさしづ」では「神は四方正面である」（さ22・6・17）、「神は四方正面として働く」（さ20・11・－）と言われ、親神の鎮まる「このやしき、四方正面、鏡やしきである」（さ20・4・23）などと諭されている。「四方正面」と「鏡やしき」とがいっしょに諭されている場合が多い。これは、澄みきった鏡には、表裏の区別なくすべて映るというつながりからである。

また、「さづけの理」をいただいた人への「おさしづ」に、表も裏も映ること、尽す心が映ることが四方正面と言われ（さ22・3・2ホ）、表裏なく、つねに誠の心を尽くすのが信仰の道であると諭される。（天理教事典第三版、420-421頁）

「四方正面」という言葉の如く、前後左右の全ては正面であるという意味ですが、同時に、どこから眺めても表裏のない状態を意味し、澄んでいるということも意味しています。

「神は四方正面である」（さ22・6・17）とは、親神様はどこから見ても曇りがないということです。このおさしづは、教会設置を地方庁に出願する時の伺いに対するお言葉ですが、親神様はどこにも逃げ隠れはしないという意味で使われているように思われます。

「神は四方正面として働く」（さ20・11・－）と仰せいただく意味は、親神様は常に正面から物事に取り組んでくださることを意味していると思うのです。「四方正面」ということですから、四方は全て「表玄関」ということになります。つまり、いつでも、どこからでも「正面玄関」から入ることができる、延いては、堂々と親神様の懐に入っておいでと仰せられているように思えるのです。このおさしづの前後には次のようなお言葉があります。

……世界中の人間皆同じ兄弟、皆世界鏡と、神は四方正面として働く。皆世界の処へ、心通りを身の内へ映してある。これ思えばめん／＼も速やかと成れるやろ。めん／＼も人に見せられんというような身、とても仕様無いものと思えば、めん

／＼心澄ませるやろ。先の処も長くと思うて見よ。身の処速やかと成る。（さ 20・11・-）となっています。これは身上を頂戴している方の伺いに対するお言葉です。

読んでいただければ、大体のことは悟れると思いますが、「世界中の人間は皆兄弟姉妹であり、その人々を鏡としてさまざまなことを映し、どのようなことに対しても親神は守護する。現在患っている身上は、周囲の姿を身の内に映しているのであり、それが分かればスッキリ心が治まるだろう。それぞれの胸の内の全てを、或いは前生からの心遣いの姿を周囲に映して皆に見せることはできないであろう。そのように考えれば、この身上を通して心を澄ませることができるだろう。先々のことを考えれば身の内の守護もすぐに頂戴できる」と仰せられているように思うのです。

「四方正面」は「人の振り見て我が振り直せ」とは違って、見える姿だけを基にして自分の言動を振り返って改めよというだけの話ではないと思うのです。親神様は私たちの心の中をご覧になられてお働きくだされていることを仰せられているように私には思えるのです。姿形だけ立派になっても、心が伴っていないのであれば、親神様がお働きくださることはないように思えるのですが、どう思われるでしょうか。

また、おさしづの「このやしき、四方正面、鏡やしきである」（さ 20・4・23）とは、綺麗な鏡には何もかも映るという意味ですが、特に「やしき」、つまり本部に於いての心の遣い方は親神様に見抜き見通しであるということも意味しておられるのではないでしょうか。このような意味が「四方正面」に含まれていると思うのですが、そこから少し展開してみたいと思います。

四方の鏡に映る自分の姿を見て自分の言動を省み、間違っていることがあれば改めることが大切なのですが、鏡に映っている自分の姿が気になるということは、周囲が気になるという意味にもなると思うのです。そのように受け取ってこの「四方正面」の意味をもう少し掘り下げた時、「四方正面」と仰せいただく意味の中には、「将来的には周囲が気にならないようになりなさい」とも仰せられているのではないでしょうか。更に掘り下げると、「四方正面」に映っている自分の姿を見ずとも、自分の心遣いが分かるようになっているのが理想なのだと仰せられているように思うのです。換言すれば、周囲を気にしている間は、心の成人が進んでいないと言えるのかもしれないと思うのです。

御教えをきちっと身に付けて、常に親神様、教祖に焦点を当てていれば、周囲がどうであろうとも気にならない、問題にならないと思うのです。つまり、日々神一条の精神で通っていれば、周囲が気にならず、周囲に惑わされることはなくなるのではないかと思うのです。そのようになるための過程として「四方正面」と仰せいただいているのではないでしょうか。

もちろん、周囲の人々と心を合せて行動することは大切です。しかし、もし周囲の人々の顔色を見て自分の言動を変えて御教えを歪めてしまったならば、信仰の道から外れてしまうかもしれません。それではいけないのです。

ちょっとややこしい話になってきましたが、周囲の人々の言動が気になり過ぎることは、どうなのかという意味です。大切なのは、常に親神様、教祖に心を向けて、御教えを基準にして言動を起こし、周囲の人々と一手一つになってつとめることだと思うのです。

しかしながら、人間の私たちに取りまして、周囲の人々の言動が気にならないようになることは、なかなか難しいことです。ですので、親神様は「四方正面」と教えてくださって、私たちの心の成人を促されているのではないでしょうか。

皆さんはどのように思われるでしょうか。

深谷　洋

立教186年9月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、“月日にハせかいぢううハみなわが子　かハいいゝばいこれが一ちよ”との深い思召のまに／＼、長の年限、尽きることなき御守護と幾重のお仕込みにより、一れつ人間の成人をお見守りくだされ、お導きくださいます御高恩の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は、及ばぬながらも御恩報じを念じて、日夜勇んで世界たすけの御用をつとめさせていただいておりますが、その中にも今日の吉日は、当伝道庁の九月の月次祭を執り行う芽出度い日柄ですので、只今より、ぢばの理を頂戴し、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに寄り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜る御恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護を頂戴したいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、当伝道庁の立教百八十六年秋季霊祭を、滞りなくつとめ終えさせていただき、誠に有難うございました。これからも霊様方の御功績を礎に、更なる道の発展に努めたいと存じます。

私共は、世界中で起きている戦争や紛争の治まりを願い、管内の教友一同、にをいがけ強調の月の本月を、普段よりもにをいがけ、おたすけに力を注いで、勇んで通りたいと存じます。また、御教えの素晴らしさを次世代に伝えて、更なる道の伸展を目指して邁進したいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、届かぬところは幾重にもお仕込みくださり、尚も変わらぬ親心を賜り、一日でも早く世界の人々が互いに手を取り合ってたすけ合う陽気ぐらしの世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

９月月次祭神殿講話

Fellowship of Joy 布教所長
佐々木 教之

ただ今ご紹介いただきました、佐々木でございます。

皆さん、人生には幾つの坂があるかご存知んでしょうか。言わずとも一つ目の坂は、人生が上向きに向いている時の上り坂、人生こうありたいですね!!

二つ目の坂は、人生が思うように、ままならぬ時にやってきます下り坂、こうはなりたくないですね。

三っ目の坂は、良きに付け、悪きに付け思いがけぬ時にやってくる、『まさか』です。

その『まさか』『まさか』で今、ここにこうして立たせていただいております。

2018 年に一度、神殿講話のお役をいただき、冷や汗をかきながら、ここに立たせて頂きました。それが最初で最後と思っていましたところ、私の読みが甘かったです。『まさか』、『まさか』の二度目となりました。

本日は、『会社勤めから見えて来た目に見える徳』につきまして私が常日頃思いますことを実例をもってお話をさせていただきたいと思います。

どうぞ聞き取り上手で、話をお聞き取りいただけますようお願いいたします。

只今は、９月の月次祭を庁長先生を芯に陽気に勇んで無事勤め終えましたこと、ご同慶に存じます。コロナ禍で鳴り物を入れてのお勤めが勤められなかったここ数年ですが、九つの鳴り物を入れてのお勤めはやはり心勇みます。

昨年１０月１３日、前触れもなく突然庁長先生より来年の９月の月次祭の祭典講話をお願いしますとメールをいただきました。

如何にしてお断りしようかと思いながら思案にふけっておりました。皆様方も同じではないでしょうか。お声をかけていただきました時に、間髪入れずに『ありがとうございます。お受けさせていただきます。』と言える方は何人おられますでしょうか。本来はそうあるべきと思いますが、それがなかなかできないのが、凡人かもしれません。

私、数年前より起こってくる全ての事象は、親神様からの『プレゼント』、『ギフト』と悟るようにしました。プレゼントですから、箱を開けるまで中身がわかりません。開けたところで自分にとりましてありがたいものもあれば、不都合と見られるものもあります。自分に取りまして不都合な事情、身上も中にはあるかもしれません。そこはプレゼントの奥に潜んだ親心を如何に悟らせていただくかが、信仰の世界に生きる我々のあるべき姿なのかなと思います。会う人には事情も、身上も全てが神様からの『プレゼント』『ギフト』と、お話もさせていただいて来ましたので、お断りすると一寸、意に反するのかなと考えなおしまして、申し訳ないことに、直ぐには返事はできま

せんでしたが、お受けすることとしました。
　ある方が、『頼まれごとは、試されごと』と言われていました。
　人間は、頼まれた時に瞬時にして『自分自身にとって損か得』かと判断して返事をしてしまうものだそうです。また、できない理由をあれこれと探し出し、考え出して、お断りするのが常套手段でもあるそうです。
　断れば、自分の今の現状から脱皮もできず、何の変化もありません。受けるところ、させていただくところに自分の殻が破られて、新たな自分を発見できるのではないでしょうか。また、別の世界が広がって一つ異なる世界をおみせいただけるものと考えさせていただきます。
　自分にできないことは頼まれないと解釈すれば、自ずと答えは『はい』につながるものと思います。
　庁長先生の親心から時間の猶予をもって早めにご連絡いただけたのだと理解はしておりますが、しかしながら、あまり早くからご用を頂戴しますと、この 11 ケ月間が実に長く感じられました。
　私、日系の引越会社に就職し 2016 年 7 月に 38 年間務めました会社を退職しましたものの、再度請われてアドバイザーとして米州内に点在します拠点の作業品質の維持向上に向けて、拠点周りをさせていただいております。これも神様からのプレゼントと悟り、喜び勇んで勤めさせていただいている今日この頃です。
　勤めだして 45 年の月日が経つわけですが、引越業務に携わって来た経験の中からお道の徳につきまして、思いますところ、考えますところをお話しさせていただきます。
　前置きが少々長くなりましたが、皆様方それぞれに『徳』ということにつきましては、一度や二度ならず考えたこともおありのことと思いますし、また、お道の先生方から耳にタコができるほど、お聞きしていることと思います。
　お道ではよく、あの人は、『徳』のある人だ。『徳』がない人などと、会話の中でも使われているのではないでしょうか。
　では一体『徳』とは、何なのか、お考えになったこと、ありますか。
　お金持ちだから『徳の』ある方なのか、会社で地位のある方だから『徳』のある方なのか、健康だから『徳』のある方なのか、家族円満だから『徳』のある方なのか、素晴らしくよくできた奥さん、ご主人に恵まれたから『徳』のある方なのか、素晴らしい息子、娘がいるから『徳』のある方なのか、考え出したらきりがありません。もちろん人それぞれの価値観にもつながるかと思います。
　広辞苑の徳の説明では、
　一、道を悟った立派な行為
　二、良い行いをする性格、身についた品性
　三、人を看過する人格の力、めぐみ
とあります。
　非常に分かりやすく説明されています。私自身もこうありたいと願っています。願ってもどうすることもできません。行動あるのみと考えます。
　また、天理教事典では、徳につきまして次のように説明してくださっています。少々長いので一部割愛させていただくことをお許しいただきたく思います。
　本来徳が身につくのは道徳的な修業によるものであるが、天理教の教理によれば、徳は現実に現れる姿形よりも、将来現れてくる可能性を含んだ種（たね）のようなものとして受け取られる。それは、それを受け取って親神が守護を見せられるその原因、元となるもので、その人が親神の恩召に添って通る（信仰の道を歩む）時、その個人の心身に付与されるものとみられる。次の『おさしづ』は、その消息を伝えている。
　『これから先どんな道あると定めて一時

に聞き分けるなら、一時に受け取る。どんな処も見えてある。早く定めてくれ。定めてくれば、どれだけの徳とも分からん。徳と言えば、どれだけの徳と思うやろ。』（さ25・1・14）

次に、徳を身につける方法については、『おさしづ』では、どんな中も『たんのう』し、不自由して教えに尽くすあり方を言われている。

『不自由の処たんのうするはたんのう。徳を積むという。受け取るという』（さ28・3・6）

『贅沢して居ては道つけられん。聞き分け。草鞋はいてだん／＼運び、重く徳積んでこそ理が効く』（さ31・11・4）

『道を一分なりと尽くしてみよ。自分の徳はどのくらいか』（さ40・4・9）

とあります。一度聞いたぐらいでは、私にはとてもとても理解できるものではありませんが、たんのうすることの大切さだけは理解できます。

また、稿本天理教教祖殿逸話編63、『目に見えん徳』では、教祖が、ある時、山中こいそに、

『目に見える徳欲しいか、目に見えん徳欲しいか、どちらやな。』

と、仰せになった。

こいそは、『形のある物は、失うたり盗られたりしますので、目に見えん徳頂きとうございます。』とお答え申し上げた。

と言う逸話がございます。

話は飛びますが、ニューヨークセンターの４代目所長の故森下敬悟先生の奥様のお話をここでちょっとさせていただきたく思います。もちろん、お嬢様には許可を得てのことです。

ご存知のように、故森下奥様は、腰の低い、また口数少ない、常にニコニコと笑顔を持って我々を導いてくださいました。我々夫婦は、親しみを込めて『森下お母さん』と言わせていただいておりました。

センター初期の頃は何もない時代でした。たまたま私が引越業務の仕事に携わっていました関係で、まだまだ十分に使える品物がたくさんお客様宅から出てきました。そんな時はできるだけセンターに使っていただこうと運ばせていただいた時期もございました。

そんな中、森下お母さんから、『今ニューヨークセンターでこんな物が必要なんだけれども。』と尋ねられたことが幾度となくありました。森下お母さんは、常にセンターに参拝に来られます方々のこと、センターにお泊りになられます方々に安心してお泊まりいただけるように、常に気を配られていたことは言うまでもありません。贅沢はできないが不自由ないようにと常に心がけておられたと思うのです。森下お母さんから『こんな物が必要なんだけれども』と言われますと、数日中には間違いなく希望されます品物が、素晴らしいコンディションで出てくるのです。最初の頃は、偶然かなとも思いましたが、何回となく度重なってきますと、これはもう必然としか言いようのないものの様に感じられて来ました。

逆に言えば、森下お母さんが言われます物、センターにとって必要と思って言

われます品物は、間違いなく与えていただけるものと確信するようになりました。だから言われましても心配もいたしませんでした。絶対にあたわるべくして出てくるのです。

そのように考えますと、森下お母さんのように、長の年限、このアメリカの地で、お道の上に『伏せこまれた理』でなるべくしてなったのではないかと思います。常に人様に喜こんでいただくことをされてきた結果、ニューヨークセンターで必要とするものは全て、無条件で瞬く間にお与えいただけたのではないかと考えます。

私思いますに、人の目につかないところで、人様に喜んでいただくことを毎日コツコツと続けさせていただく。人様のために働く。日々すべてのものに感謝し、ものを大切に使わせていただく。

この行いが、即ち親神様、教祖に喜んでいただけることにつながり、目に見えない徳へとつながるのではないかと思うのですが、如何でしょうか。

親神様に喜んでいただける行動を常に模索し実行することが何よりも大切と思います。

また、目に見える徳は、目に見えない徳の上に成り立つのではないかとも思うのですが、徳のある人とは、必要なものが、必要な時に、必要な分だけ与わる人。

断っておきますがここでの『必要なもの』というものは、己の私利私欲のために必要なものということではありませんので誤解なきようお願いいたします。

また、何を聞いても、何を見ても、不足心を持たない人。

このような方も徳のある方と申していいのではないでしょうか。

また、徳のある方と話をしていますと、こちらに感動感激という喜びを常に与えてくださる方のように思うのですが、如何でしょうか。

『アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭』、『教祖 140 年祭』は待ったなくやってまいります。

どれだけできるかは、わかりませんが、人様に喜んでいただけることを念頭におきながら実行させていただき、アメリカ伝道庁 90 周年記念祭、教祖 140 年祭の参拝の折には、親神様、教祖にお喜びいただける姿をおみせできるように日々勤めさせていただこうと考えています。

ご静聴ありがとうございました。

※以下のリンク /QR コードから Youtube にてご覧いただけます。

https://tenrikyo.com/sermons/noriyuki-sasaki-september2023

伝道庁連絡

9月月次祭

祭　主　　庁長
扈　者　　岡崎マーロン　雪本　善
賛　者　　岩橋元博　田所レイ
指図方　　鳥澤繁實
神殿講話　佐々木教之（日）

おつとめ奉仕者任命

10月14日（土）付で、サウスカルフォルニア教会の、宮野正雄会長、宮野治枝会長夫人、シングルワード布教所の中川洋一氏が、おつとめ奉仕者に任命されました

教会事情

アメリカ伝道庁：臨時祭典願
　おはこび予定：2023年10月26日
サンフランシスコ教会：任命願、臨時祭典願
　おはこび予定：2023年10月26日
　教会長：田中知義
　奉告祭：2023年12月2日

天理教語学院（TLI）日本語科入学願書及び志願者のための一れつ会扶育願書

2024～2025年のおやさとふせこみ科の出願要項は以下のようになっております。願書を取り寄せる必要がありますので、入学を希望される方がいる場合はお早めに伝道庁までご連絡ください。

出願期間：2023年10月1日～10月31日
　　（日曜日、祝祭日、10月26日午前は除く）
出願資格：以下の条件を全て満たす者

1) 本国で正規の課程による12年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者。
2) 海外の教会長、布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時にようぼくの者。
3) 本校日本語科卒業（見込み）の者、または「日本語能力検定」N2（または2級）以上に合格した者、卒業後、将来自国においてお道の用務に従事する予定の者。

ようぼくの集い

来月11月18日にようぼくの集いを開催させていただきます。今回は対面とZoom両方（ハイブリッド）での開催となります。開催時間は太平洋時間の午後2時から4時30分までの予定です。
参加希望者は、次のURLもしくはQRコードからお申込みください（10/22締切）：
https://tenrikyo.us4.list-manage.com/track/click?u=9606e87935676c4498eef39a5&id=eaa554251f&e=44b61f7978
内容は、「縦の伝道講習会」の講話を視聴し、その後グループディスカッションをします。

修養科について

修養科英語クラスが来年3月末から3ヶ月間、おぢばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早めに伝道庁にお知らせください。尚、何らかの理由で修養科英語クラス開講の中止、また査証取得ができない場合がありますので、ご了承ください。

創立90周年記念祭お願いづとめ

アメリカ伝道庁創立90周年記念祭を無事に迎え滞りなくつとめ終えられるように、10月25日（水）、本部教祖殿での朝の「まなび」終了後、東礼拝場にてお願いづとめ（座りづとめ）を勤めますので、この折にご帰参中の方はご参集くださいますようお願い致します。お願いづとめ後、教祖殿、祖霊殿での礼拝後に解散致します。

ようぼく一斉活動日

「教祖140年祭に向かう三年千日、同じ地域に住むようぼくがお互いに励まし合い勇ませ合って、それぞれの教会や個人の年祭活動の更なる実践につなげる」ために、各地区に於いて「ようぼく一斉活動日」が実施されます。所属する各地区責任者に開催日時・場所について確認して、参加してくださるようご案内します。

一れつ会特別扶育生募集

2024年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶育」の募集をします。締切は12月31日です

マウイ島山火事募金

ハワイ州マウイ島での山火事災害に対して、10月15日（日）まで、伝道庁事務所に募金箱を設けて募金を集めます。集まった募金は、ハワイ伝道庁に送り、マウイ島山火事災害のために使用します。小切手の場合は宛名に「Tenrikyo Mission Headquarters in America」と記入し、メモ欄に「マウイ島募金」と書いてください。また、Tax控除を

希望される場合は、封筒に現金又はチェックを入れて封をし、寄付者の氏名、住所、金額と「マウイ島募金」と封筒に書き、募金箱に入れてください。後日、アメリカ伝道庁より感謝状をお送りさせていただきます。

尚、現金の郵送はご遠慮ください。また、QR コードよりマウイ島に直接募金も可能ですので、ご利用ください。

各会連絡

ふしん委員会

・天理会館２階のドア工事の見積もりを進めています。
・大きい駐車場の剪定や除草を進めています

布教委員会

・11 月に「よふぼくの集い」の開催を予定しております。

教化育成委員会

・おやさと練成会事前研修は、12 月 28 日（木）～ 30 日（土）の日程で、対面式で開催します。小委員会では、対象者に連絡をとっており、参加希望者に申込みのリンクを送っています。
・LA 婦人会、ラメージセールでの収益を寄付していただき、有難うございました。寄付は勿論の事、準備から当日まで携わって下さった方々に御礼申し上げます。冬季錬成会に役立てさせていただくと共に、今後の TSA を更に勇み、活気のあるものにしていけるよう、大切に使わせていただきます。
・TSA 冬季練成会を、12 月 26 日（火）～ 29 日（金）に伝道庁にて開催予定。内容：講義、HARP 行事、餅つき、スキー / スノーボード。申込書は今月配布します。申込みは既に始まっており、締切は 12 月 3 日で、参加上限は 35 名です

広報委員会

・8 月の月次祭講話から、伝道庁ホームページにて日英両語での視聴が可能になりました。
・90 周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しております。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先：
川上（kamishuyo@hotmail.com）
林（takhayashi@gmail.com）

翻訳委員会

・翻訳会議を 10/31 ～ 11/4 の期間でアメリカ伝道庁にて行います。この会議では逸話篇を 200 番まで進め、最終確認をします。

婦人会

アメリカ婦人会は、2024 年に創立 70 周年を迎えます。諸先輩方がお通り下さった尊い歩みに感謝し、更なる歩みを親神様、教祖にお誓い申し上げるべく 2023 年、１年をかけて「アメリカ婦人会創立 70 周年記念おぢばがえり」を実施致します。

おぢばへお帰りになられた婦人会員は、是非お名前をお知らせください。

・地区総会
ロスアンゼルス地区　於：アメリカ伝道庁
10 月 22 日（日）午前１０時～
サンフランシスコ地区　Zoom
10 月 28 日（土）午前１０時～
カナダ西部地区　於：グランビル教会
11 月 5 日（日）午前１０時～
・主任と委員部長との懇談会を開始

青年会

・第 97 回天理教青年会総会は 11 月 25 日（土）午前 11 時より教会本部で開催されます。総会後に、ステージや屋台などがある催し物が開催されます。
・インターナショナルひのきしん隊は、2024 年 7 月 18 日～ 24 日に開催予定。
・教祖 140 年祭の年の 2026 年 7 月 18 日～ 24 日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

少年会

・縦の伝道講習会が 8 月に開催されました。講話のビデオが伝道庁ホームページにアップロードされました。どうぞご視聴ください。
・教会こども会等で教祖のお話をし、親子ぐるみのひのきしんを実施してください。
・鼓笛を一緒にしませんか？
今月から「Mickey Mouse March」を練習する予定です。

NY センター

・10 月 14 日　青年会・女子青年合同交流会

「信仰の喜びを分かち合おう！私の９０周年記念祭」

教会や布教所にお連れし、真実（まこと）の喜びを分かち合う

毎年恒例、サンフランシスコ・サクラメント地区の合同ピクニックが、９月４日に開催されました。今年で２０回目の開催となる本年は、42 名が参加しました。

Tenrikyo Creative と伝道庁ウェブサイト委員会により制作された、教祖のショートムービー、「Stories Inspired by OYASAMA」が 10 月 26 日から公開されます。

伝道庁ウェブサイト、もしくは Facebook、Instagram から視聴可能です。ご期待ください。

https://tenrikyo.com

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God`s children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

"With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed. The mind alone is yours." Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.